

奨励賞

理学療法科学 2025 年 40 巻 1 号 p. 34-41

DOI <https://doi.org/10.1589/rika.40.34>

ウェルウォークを実施した脳卒中片麻痺患者における歩行予後予測因子についての検討
—決定木分析による検討—

池上 滉一, 餅 脩佑, 船引 啓祐, 中谷 友哉

社会医療法人三栄会ツカザキ病院 リハビリテーション科

〒671-1227 兵庫県姫路市網干区和久 68-1

TEL 079-272-8555

本論文は、歩行練習アシストロボット「ウェルウォーク (WW)」を導入した脳卒中片麻痺患者 78 名を対象に、WW 終了時の平地歩行自立を予測する決定木モデルを構築した研究である。ロボットリハビリテーションの普及が進む中、「どのような患者に対し、いつ導入すれば自立に至りやすいか」という臨床的な疑問に対し、本研究は明確なカットオフ値をもって一つの解を提示している。決定木分析の結果、歩行自立を分ける最初の分岐点として「発症から WW 開始までの日数 (27.5 日)」が抽出された点は特に重要である。早期介入の重要性を裏付けるとともに、機器導入の具体的な期限の目安となる。さらに、「Fugl-Meyer Assessment 下肢項目 (18.5 点)」や「年齢 (76.5 歳)」といった、日常臨床で取得する基本指標のみでフローチャートが構成されているので、現場のセラピストが即座に活用できる点が本論文の最大の強みである。この予測モデルは、患者や家族に対する予後説明や、根拠に基づいたゴール設定を行う上で強力なツールとなる。単一施設のデータであるため一般化にはさらなる検証が待たれるが、ロボット介入の効果を最大化するための「適応基準」の標準化に向けた、重要な一石を投じる優れた報告であると選考委員会で評価され、奨励賞を授与する。